

「ふれあい通信」は県労福協、南部労福協、中央労福協の様々な労働者福祉に関する取組について情報発信をすること、そのことで労働者間のネットワークづくりの一助となること、そして大きな輪（絆）となることを願って発信していきます。（中央労福協ニュース「News Letter」含めて）

2019年中央労福協は、結成70周年を迎え2030年ビジョンについて2009年に策定した労福協の理念「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会をつくります」を大切に継承し、今後も堅持していくことを確認しました。

また、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)のもと、2030年までに貧困に終止符を打ち「誰ひとり取り残さない」包摂的で持続可能な社会を実現するために様々な取り組みが動きだしています。しかしながら新型コロナウイルス感染症の拡大からSDGsの後退、そしてこのことから貧困、格差の拡大が顕著に表れてきています。WHOのテドロス事務局長は、新型コロナウイルスの変異株に対応して、3回目の接種を行おうとする富裕国に対し他国が国民の1回目の接種分の確保に努めている中で推進すべきではないこと、接種率が低い低所得国や中所得国へ回す必要があると強調しています。やはりこれも貧困・格差を顕著に表したものだと言えます。

かつて経験したことのない未曾有のパンデミックは、私たちの活動にも多大な影響を及ぼしています。多くの会議、集会等はWeb開催となりコミュニケーションの場すらなくなってしまいました。コロナ収束後もしばらくは、マスク着用が普通でありWebも活用されていくと思われれます。

このような状況ではありますが、労働組合、福祉事業団体のみなさんと情報の共有を図り、活動の在り方を模索して行きたいと思えます。

なお、「ふれあい通信」の構成については、今後様々な視点から検討してよりよい通信づくりをしていきます。また、労働組合、福祉事業団体の皆さんからも情報提供(組合・事業団体のイベント等の掲載)もお願いしていきたいと思っています。

また、今後関係機関等への発信(関係機関の情報についても共有)も検討しながらネットワークづくりができればと考えています。

宜しく願いいたします。

## 【1】理事長からひと言コーナー

スタートします。「ネット版 ふれあい ふくし」

こんにちは。理事長の友田です。日頃より労働者福祉運動に対し、ご理解とご協力をいただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、労働者福祉運動を皆さんに知っていただく一つのツールとして、現在広報誌「ふれあい ふくし」(3,800部/回 発行)を年に3回発行しています。通常総会報告、新年号など、節目における活動報告を主に、皆さんにも永くご愛読(親しんで)いただいているところでございます。

このたび、この広報誌を補完しながら、よりタイムリーな情報発信源として「ネット版 ふれあい ふくし」を愛称『ふれあい通信』として、今年度末(2022年4月末)まで試行的にスタートすることといたしました。講演会や学習会等のご案内、福祉事業団体からの情報など、1回/月の情報発信としていきたいと思っております。

試行期間における『ふれあい通信』に対し、ぜひとも皆さんからご意見をお寄せいただき、内容の充実をはかっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

\*\*\*\*\*

## 【2】中央労福協活動コーナー

### ■2021 全国福祉強化キャンペーンの取組

#### (1) 目的

「今こそ、労福協の力を」を合言葉に、地域活動での実践を着実に進め、労働者自主福祉運動の社会的存在を高め“共助の輪”を地域に広げる。

#### (2) 全国共通テーマ

①労働者福祉運動で、‘共助の輪’を地域に広げよう！ ②生活・就労支援を地域のネットワークで支えよう！

合言葉 「今こそ、労福協の力を。」

※初めて経験する未曾有のコロナ禍の状況の中、私たち労福協が主体となり、事業団体・労働団体とより一層の連帯を深めながら、力強く取り組みを展開していくための合言葉

#### (3) 取組期間

2021年10月～11月の2ヶ月間を強化月間とする。

#### (4) 具体的な取組内容

##### 【重点活動】

##### ①ミニマム行動(全国統一行動)

##### i 奨学金に関する取り組み

- ・全国一斉相談の実施・・・2021年11月11日(木)
- ・オンライン署名の取り組み・・・2021年11月末まで

教育費の負担を軽く 未来を明るく

奨学金返済や教育費の負担を軽減するため、税制支援を求めます。

オンライン署名はコチラから！ ⇒ <http://chng.it/GQ2cnRd88Z>

詳細はこちらをご覧ください。

⇒ 奨学金返済と教育費の負担軽減を求めるプロジェクト：フライヤー

## ii 自治体要請行動

・「2021 年度の中央労福協と地方労福協の要請・回答内容」、「要求と提言（自治体要請参考版）」等を活用

## iii 労金協会、こくみん共済 coop 等との連携

・多重債務者・奨学金返済困難者への対応や防災・減災運動の展開

### ②チャレンジ行動

地域活動の実践として全国研究集会のテーマ「コロナ禍や大規模災害を乗り越える地域コミュニティの再生」の考察を踏まえた地域活動の実践の検討

③リモートや Web を活用した研修会の実施

【利用促進・共助拡大の活動】・・・**2021年11月実施予定**

①労働団体への要請

②事業団体との連携

\*\*\*\*\*

## 【3】ひとロメモ

### ▣パンデミックって？

感染症の流行は段階的に広がる傾向がありますが、最初に起こるのが「アウトブレイク(outbreak)」です。これは、特定の区域や特定の集団において、通常予測される以上に感染症の症例数が増加していることを意味します。医療施設内で起こる院内感染による感染爆発もアウトブレイクとみなされ、「院内アウトブレイク」と呼ばれることも。

そして、感染症が最初に急増したコミュニティよりも広い地域に拡大すると、「エピソード(epidemic)」と呼ばれるようになります。さらに、エピソードが国境を越えて広がり、複数の国や大陸に拡散・同時流行した状態が「パンデミック(pandemic)」です。「感染爆発」と訳されることもあります。

パンデミックを引き起こしてきた感染症の一つには天然痘があります。天然痘は日本では 700 年代に猛威をふるった記録があるこの病気の原因は、大豆瘡（だいとうそう）型と呼ばれるウイルス株です。長きにわたって人類を苦しめてきた天然痘ですが、1796 年、英国の医師エドワード・ジェンナーが牛痘（感染した牛の膿）を人間に接種することによって感染を防ぐ方法を発見しました。これが感染症の特効薬であるワクチンの元祖となります。その後も天然痘と人類の闘いは続きましたが、1975 年にバングラデシュの少女が発症したのを最後に、以降感染者は一人も認められておらず、天然痘は人類が根絶した唯一の感染症となっています。

第一次世界大戦中の 1918 年に始まったインフルエンザによるパンデミックは、被害の大きさを群を抜いています。このインフルエンザは俗に「スペインかぜ」と呼ばれていますが、実はスペインが発生源というわけではありません。このインフルエンザに世界中で約 5 億人が感染したとされており、これは当時の世界人口の 4 分の 1 から 3 分の 1 程度に相当します。死亡者数も正確な数字は分かっていませんが、全世

界で少なくとも 4000 万人、一説には 1 億人とも言われています。感染者はまさに世界中に広がり、その中には太平洋の孤島や北極圏の人々も含まれていました。日本でも約 2300 万人の患者と約 38 万人の死亡者が出たと報告されています。抗生物質すら発明されていなかった当時、有効なワクチンなどもなく、対策は患者の隔離や公共施設の閉鎖など限られた手段のみ。生き残った人が抗体を獲得し、集団免疫を形成するまで、事態は収束しませんでした。

【FUJIFILM FUTUER CLIP から引用】

\*\*\*\*\*

#### 【4】福祉事業団体の活動

以下の URL からご覧ください。

(1) 九州労働金庫熊本県本部

<https://kyusyu-rokin.com>

(2) こくみん共済 coop 熊本推進本部

<https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/kumamoto.html>

(3) ユニオントラベル熊本

<http://unitora.com/>

(4) 秋津レークタウンクリニック

<https://akitsu-laketown.jimdofree.com/>

(5) ライフサポートセンターくまもと

<http://blog.rofuku.net/kumamoto-lsc/>

(6) 熊本県労働者福祉会館

[\(http://www.roukan.org/\)](http://www.roukan.org/)

\*\*\*\*\*

#### 【5】事務局からのお知らせ

■気候変動（地球温暖化）の対策も喫緊の課題となっています。7月26日～8月6日の間各国政府や世界気象機関（WMO）、国連環境計画（UNEP）といった国際機関などから300名以上が出席し（日本から21名）「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」との表現を用い、人間活動が温暖化に与える影響を強調しています。地球温暖化の原因が人間の活動、利便性を求めてきたものと初めて断定しました。

地球温暖化は、海面の上昇から熱波や干ばつ、大雨やそれによる洪水など、気温上昇のほかにもこれらの気候変動を引き起こし、私たちだけでなく地球に住む動植物などの生態系にも影響を及ぼしています。

未来を担う子どもたちに関わる大きな課題です。今私たちが道標を示さなければならぬ喫緊の課題でもあります。まずは、何が出来るのか、ひとり一人が出来ることから考えてみませんか？ 秋の夜長に・・・

**ご意見、ご要望をお聞かせください。**

一般社団法人 熊本県労働者福祉協議会

〒862-0976

熊本県熊本市中央区九品寺 1 丁目 17-9

TEL 096-375-6029 FAX 096-375-6030

E-mail [rofuku@lime.ocn.ne.jp](mailto:rofuku@lime.ocn.ne.jp)